

2. 流域及び河川の自然環境

2-1 自然環境

(1) 流域の自然環境

①自然環境の概要

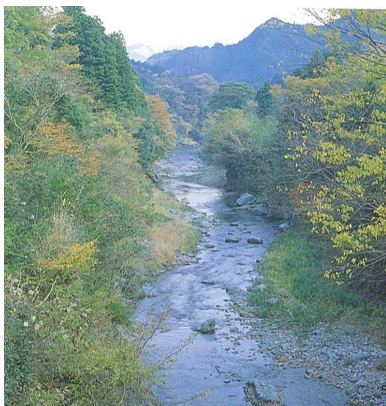
櫛田川中・上流域の一带は^{かはだきょう}香肌峡県立自然公園及び^{むろうあかめあおやま}室生赤目青山国定公園に指定されている。

上流域は1,000m級の山々が連なる山間地域で^{はちす}蓮溪谷をはじめとする数々の溪谷・景勝地がある。植生としては、スギ、ヒノキの人工林の間に、^{おおだ}青田溪谷（^{おおだ}青田川）・^{おおだ}蓮溪谷一带をはじめブナの原生林が残存し、モミ、シデなどの樹林が残存するほか、トガサワラ、イワギリソウ等の植物も生育し、特にトガサワラは、本州の北限分布地となっている。このような樹林地帯には、樹林の環境に依存するモリアオガエル、ホンドザル、ニホンカモシカなどの動物が生息している。

中流域の沿川にはスギ、ヒノキの人工林やシイ、カシ^{ほうがりん}萌芽林などの樹林が連続し、林内にはハコネサンショウウオ、ギフチョウ、オオムラサキなどが生息している。また、沿岸では、櫛田川本川中流域の^{おいしふどういん}大石不動院にあるほうろく岩に群生するムカデランの群落が国指定天然記念物となっている。

下流域には、^{まつきか}松阪市の市街地や田園地帯が広がり、丘陵の麓にはアカマツ林、海岸部にはクロマツ林が広がっており、上流域の溪谷美と合わせて、櫛田川の豊かな自然を特徴づけるものとなっている。

櫛田川は、アユの季節になると水面が鮎の色に染まると言われるほど自然豊かな河川であり、香肌峡の名に示すように櫛田川及びその沿川には、鮎、茶、椎茸といった香り高い産物が多く、とりわけ天然鮎の踊る清流として名高い。



^{おくかはだきょう}
奥香肌峡

室生赤目青山国定公園の櫛田川上流と支川の蓮川一带に広がる溪谷であり、春は新緑、秋は紅葉が美しい。

【出典：飯高町まると発信ガイド】



田園風景（^{めいわ}明和町）

櫛田川下流はのどかな田園風景が広がっている。

【出典：明和町勢要覧】

② 櫛田川流域にすむ生物

櫛田川は、直轄管理区間中・下流部でワンド状の止水的環境から、湿地、水辺、砂州、塩沼地、休耕地や耕作地、さらにスギ人工林等の樹林まで様々な環境が見られる。また、直轄管理区間の上流部は多くが無堤区間であり、河岸には帯状に樹林が分布し、樹林性の植物種が多く生育している。

特に河川環境を代表する水辺・湿地環境には、ヨシ、ヒメガマ、マコモ、ツルヨシ、ウキヤガラ等や、ジャヤナギ、タチヤナギ、カワラハンノキ等の河辺林の構成種、オオカナダモ、ヒシの沈水、浮水植物が生育している。

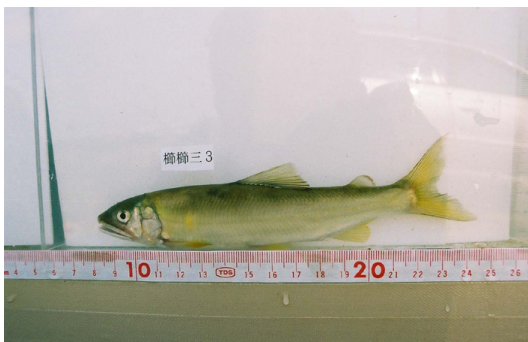
また、河口の塩沼地や海浜環境にはアイアシ、フクド、ハマボウ等のその立地特有の植物種が生育し、河川に特有の多様な植物相を形成している。

櫛田川流域にすむ魚類には、アユ、アマゴ、オイカワ、タカハヤ、カワムツ類、ヨシノボリ類、アブラハヤ、ネコギギなどがある。

上流域には、アマゴやタカハヤといった渓流を代表する魚類や、カワムツ類、ヨシノボリ類が多く見られ、中下流域にはアユやオイカワ、ヨシノボリ類、アブラハヤ等が多く見られる。また、下流域にはアユの産卵場も見られる。

ひがしくろべとうしゅこう
東黒部頭首工より下流は感潮区間であり、ボラやハゼ類が確認されている。

ネコギギはきれいな流水にしか生息しない魚種で国指定の天然記念物に指定されており、櫛田川では中流域の上流を中心に生息が確認されている。



アユ

櫛田川はアユの産地として名高く、本川のほぼ全域で確認され、初夏のシーズンには県外からも多くの釣り客が集まる。

淡水で生まれてすぐに海へ下り、産卵とは無関係に再び淡水に戻る。成魚の生活場は、多くが平瀬～早瀬である。



ネコギギ

伊勢湾と三河湾に流入する河川のみ生息する日本固有種である。きれいな流水を好むことに加え、岸辺の入り組んだ場所に生息する。生物学的にも大変貴重な種であり、櫛田川の優れた自然を再確認し、それを保全するためのシンボルとも言える。

【提供：清水義孝氏】

櫛田川流域にすむ底生動物は、頭首工の湛水区間が連続する下流域では流れの緩やかな環境や止水に生息するカゲロウ目、トンボ目が多く見られる。また、河口部付近では、

ウミニナ、ゴカイ、イソコツブムシ近似種等の汽水性種が多く見られる。

櫛田川流域にすむ鳥類は、櫛田川の多様な自然環境を反映し、キジバト、ヒヨドリ等林地性の種やコサギ、アオサギ、チュウサギ等のサギ類やカワウといった水辺に依存する種、河川上流に生息するヤマセミ等が見られる。

櫛田川にすむほ乳類は、コウベモグラ、アカネズミ、タヌキ等がおり、中下流域でキツネが確認されている。は虫類は、樹林性のアオダイショウやヤマカガシ、草地性のカナヘビ、水に生息するイシガメ等がいる。両生類は、水際の草地や湿地はカエル類の生息環境として重要な存在となっているほか、上流域では三重県指定の天然記念物であるオオダイガハラサンショウウオが生息している。また、中流域では国指定の特別天然記念物であるオオサンショウウオが確認されている。



チュウサギ

「環境庁レッドリスト」で準絶滅危惧(NT)として記載されている特定種で、近年個体数が減少しつつある。



オオサンショウウオ

国の天然記念物であり、岐阜県以西の本州及び大分県に分布する。山地の溪流に住み、生涯のほとんどを水中で過ごす。【提供：清水善吉氏】

櫛田川流域にすむ昆虫類は、ヨシ、セイタカアワダチソウ、ヤナギなどの高水敷の植生状況を反映して、セクロウリハムシ、ヒメカメノコテントウ等のコウチュウ目、ショウリョウバッタ、ツツレサセコオロギ等のバッタ目等草地を主たる生息域とする昆虫類が多く見られる。

また、水辺を好むアジイトトンボ、コシマゲンゴロウ、ヒメガムシ等の種も見られる。

樹林地は、単純な草地と異なり様々な植物が生育し、昆虫やクモを含めた動物に餌やすみかを提供しており、クマゼミ、クロコノマチョウ等樹林性の種の出現が多く見られる。

③ 榊田川における重要な種

既応の河川水辺の国勢調査により確認された種、または文献による記載が確認されている重要な種は、以下に示す特定種一覧表のとおりである。特定種は、植物31種、魚類13種、鳥類15種、両生類2種、底生動物8種、陸上昆虫類8種である。

● 榊田川で確認された植物の特定種一覧表

種名	指定区分	確認場所
ヤシャゼンマイ	自然	榊田川下流部
ミズワラビ	三重レ（危惧）、近畿レ	榊田川下流部
オオバノハチジョウシダ	自然	榊田川下流部
カワラハンノキ	三重レ（希少）	榊田川河口部～下流部、 ^{はらい} 祓川
カワラナデシコ	三重レ（希少）	榊田川河口部
ハママツナ	近畿レ	榊田川河口部、祓川
コウホネ	三重レ（希少）	祓川
ヤナギイノコズチ	近畿レ	榊田川下流部
オガタモノキ	三重レ（希少）	榊田川下流部
ミヤコアオイ	危急	榊田川下流部
ヒメカンアオイ	危急	榊田川下流部
イチモチソウ	危急、三重レ（危惧）、近畿レ	榊田川下流部
タコノアシ	危急、三重レ（危惧）、近畿レ	榊田川下流部
ユキヤナギ	近畿レ	榊田川下流部
カワラサイコ	三重レ（希少）	榊田川下流部
ハマボウ	三重レ（希少）、近畿レ	榊田川河口部
ヒメミソハギ	近畿レ	榊田川下流部
ケヤマウコギ	近畿レ	榊田川下流部
カラタチバナ	三重レ（希少）	榊田川下流部
ハマザジ	三重レ（希少）	榊田川河口部、祓川
ミゾコウジュ	NT、危急、三重レ（希少）、近畿レ	榊田川河口部～下流部、 ^{きな} 佐奈川
カワヂシャ	NT	榊田川下流部、佐奈川
カワラハハコ	近畿レ	榊田川下流部
カワラヨモギ	三重レ（希少）	榊田川河口部
フクド	三重レ（希少）、近畿レ	榊田川河口部、祓川
ウラギク	VU、三重レ（希少）	榊田川河口部～下流部、祓川
シライトソウ	三重レ（希少）	榊田川下流部
アイアシ	近畿レ	榊田川河口部、祓川
ナガミノオニシバ	近畿レ	榊田川河口部
ミクリ	NT、三重レ（危惧）、近畿レ	榊田川下流部
シオクグ	近畿レ	榊田川河口部、祓川

※特定種の指定区分は、以下のとおりである。

VU：レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類種

NT：レッドリスト準絶滅危惧種

危急：「我が国における保護上重要な植物種の現状」における危急種

自然：「緑の国勢調査」における「すぐれた自然の調査」対象種

三重レ（希少）：「自然のレッドデータブック・三重」における希少種

三重レ（危惧）：「自然のレッドデータブック・三重」における危惧種

近畿レ：「近畿地方の保護上重要な植物ーレッドデータブック近畿」記載種

出典：平成 7年度 河川水辺の国勢調査 榊田川水系植物調査報告書

平成11年度 河川水辺の国勢調査 榊田川水系植物調査報告書

平成12年度 二級河川金剛川他10水系22河川河川管理基本計画策定業務委託(祓川)報告書

● 榊田川で確認された魚類の特定種一覧表

種名	指定区分	確認場所
スナヤツメ	VU	榊田川下流部～上流部
アブラボテ	三重レ（希少）	榊田川下流部、祓川
シロヒレタビラ	三重レ（危惧）	祓川
イチモンジタナゴ	EN、三重レ（危惧）	榊田川下流部～上流部、佐奈川
ズナガニゴイ	三重レ（希少）	榊田川下流部～上流部
スジシマドジョウ小型種 東海型	EN	佐奈川
ネコギギ	国指、EN、国レ（危惧）、自然、重要	榊田川下流部～上流部
ギバチ	VU	榊田川中流部
アカザ	VU	榊田川下流部～上流部、蓮川
メダカ	VU	榊田川下流部～中流部、佐奈川
カマキリ	三重レ（希少）、重要	榊田川下流部
ウツセミカジカ	VU	榊田川下流部～上流部
ニクハゼ	EN	榊田川河口部

※特定種の指定区分は、以下のとおりである。

国指：国指定天然記念物

EN：レッドリスト絶滅危惧ⅠB類種

VU：レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類種

国レ（危惧）：レッドデータブック絶滅危惧種

自然：「緑の国勢調査」における「すぐれた自然の調査」対象種

重要：「日本の重要な淡水魚類」対象種

三重レ（希少）：「自然のレッドデータブック・三重」における希少種

三重レ（危惧）：「自然のレッドデータブック・三重」における危惧種

出典：平成 8年度 河川水辺の国勢調査 榊田川水系魚介類調査報告書

平成13年度 河川水辺の国勢調査 榊田川水系魚介類調査報告書

平成12年度 二級河川金剛川他10水系22河川河川管理基本計画策定業務委託(祓川)報告書

● 榊田川で確認された鳥類の特定種一覧表

種名	指定区分	確認場所
カンムリカイツブリ	希少、国レ（危急）	榊田川下流部
カワウ	自然	榊田川河口部～下流部、祓川
チュウサギ	NT、国レ（希少）、三重レ（希少）	榊田川河口部～下流部
ミサゴ	NT、国レ（危急）、希少、三重レ（希少）	榊田川河口部～下流部、祓川
オオタカ	VU、国レ（危急）、希少、保存、三重レ（危惧）	榊田川下流部、祓川
チュウヒ	VU、国レ（危惧）、希少、三重レ（危惧）	榊田川下流部、祓川
ハヤブサ	VU、希少、保存、三重レ（危惧）	祓川
チョウゲンボウ	希少	祓川
タマガシ	三重レ（希少）	佐奈川
シロチドリ	三重レ（希少）	榊田川河口部、祓川
タゲリ	希少	榊田川下流部
コアザシ	VU、国レ（希少）、自然、三重レ（希少）	榊田川河口部～下流部
ヤマセミ	自然、三重レ（希少）	榊田川下流部、佐奈川
カワセミ	自然	榊田川河口部～下流部、佐奈川、祓川
オオヨシキリ	三重レ（希少）	榊田川河口部～下流部、祓川

※特定種の指定区分は、以下のとおりである。

国指：国指定天然記念物

VU：レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類種

NT：レッドリスト準絶滅危惧種

自然：「緑の国勢調査」における「すぐれた自然の調査」対象種

保存：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物の指定種

希少：「第2回緑の国勢調査」における「希少種」

国レ（危急）：レッドデータブック危急種

国レ（希少）：レッドデータブック希少種

三重レ（希少）：「自然のレッドデータブック・三重」における希少種

三重レ（危惧）：「自然のレッドデータブック・三重」における危惧種

出典：平成 5・6年度 河川水辺の国勢調査 榑田川水系鳥類調査報告書
 平成10年度 河川水辺の国勢調査 榑田川水系鳥類調査報告書
 平成12年度 二級河川金剛川他10水系22河川河川管理基本計画策定業務委託(祓川)報告書

●榑田川で確認された両生類の特定種一覧表

種名	指定区分	確認場所
オオサンショウウオ	国天、NT、国レ（希少）、重要	榑田川下流部
ダルマガエル	VU、重要	榑田川下流部

※特定種の指定区分は、以下のとおりである。

国天：国指定天然記念物

国レ（希少）：レッドデータブック希少種

VU：レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類種

NT：レッドリスト準絶滅危惧種

三重レ（希少）：「自然のレッドデータブック・三重」における希少種

重要：「日本の重要な両生類」対象種

出典：平成 4年度 河川水辺の国勢調査 榑田川水系両生類・爬虫類・哺乳類調査報告書

平成 9年度 河川水辺の国勢調査 榑田川水系両生類・爬虫類・哺乳類調査報告書

●榑田川で確認された底生動物の特定種一覧表

種名	指定区分	確認場所
マルタニシ	NT	佐奈川
モノアラガイ	NT	榑田川下流部、佐奈川
マツカサガイ	NT	佐奈川
ヒメサナエ	三重レ（希少）	榑田川下流部
キイロヤマトンボ	VU、三重レ（希少）	榑田川下流部、佐奈川
コフキトンボ	三重レ（希少）	榑田川下流部
ヨコミヅドロムシ	CR+EN	榑田川下流部
コオイムシ	NT	祓川

※特定種の指定区分は、以下のとおりである。

CR+EN：レッドリスト絶滅危惧Ⅰ類種

VU：レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類種

NT：レッドリスト準絶滅危惧種

三重レ（希少）：「自然のレッドデータブック・三重」における希少種

出典：平成 8年度 河川水辺の国勢調査 榑田川水系底生動物調査報告書

平成13年度 河川水辺の国勢調査 榑田川水系底生動物調査報告書

平成12年度 二級河川金剛川他10水系22河川河川管理基本計画策定業務委託（祓川）報告書

●榑田川で確認された陸上昆虫類の特定種一覧表

種名	指定区分	確認場所
コフキトンボ	三重レ（希少）	佐奈川
ツチゴキブリ	重要	榑田川下流部、佐奈川
アオマツムシ	重要	榑田川下流部、佐奈川
ヒメジュウジナガカメムシ	重要	榑田川河口部～下流部
ゲンジボタル	重要	榑田川下流部、佐奈川
ニッポンハナダカバチ	DD	榑田川河口部
オオサカサナエ	三重レ（危惧）	祓川
クロアシエダトビケラ	NT	榑田川下流部

※特定種の指定区分は、以下のとおりである。

NT：レッドリスト準絶滅危惧種

DD：レッドリスト現状不明種

重要：「日本の重要な昆虫類」対象種

三重レ（希少）：「自然のレッドデータブック・三重」における希少種

三重レ（危惧）：「自然のレッドデータブック・三重」における危惧種

出典：平成7・8年度 河川水辺の国勢調査 榑田川水系陸上昆虫類調査報告書

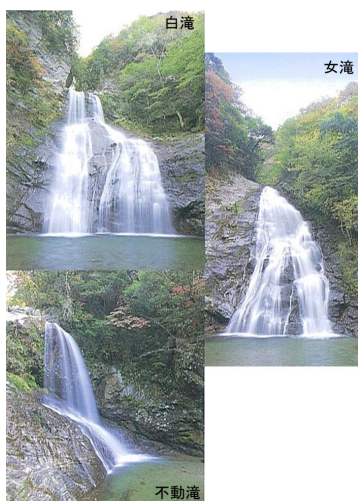
平成12年度 河川水辺の国勢調査 榑田川水系陸上昆虫類調査報告書

平成12年度 二級河川金剛川他10水系22河川河川管理基本計画策定業務委託(祓川)報告書

(2) 河川の自然環境

①上流部の自然環境

櫛田川の上流部の青田溪谷（青田川）、蓮溪谷一帯には、ブナの原生林が残存するほか、トガサワラの本州の北限分布地となっている。さらに、高滝などの点在する滝が変化に富む溪谷美を形成しており、このような水辺等には三重県指定の天然記念物であるオオダイガハラサンショウウオをはじめ、アマゴ、タカハヤ、ゲンジボタルなど、山間の清流にすむ生物の生息がみられる。



木梶三滝

最上流部に位置する木梶川には、上流から白滝、女滝、不動滝と3つの滝が存在し、木梶三滝と呼ばれ、その荘厳な瀑布は訪れる人に感動を与えてくれる。

【出典：飯高町まると発信ガイド】



宮の谷高滝

宮の谷は、高滝や風折の滝と急峻な崖があり、また原生林も残っており、溪谷美だけでなく、自然観察の場としても利用される。

【出典：蓮ダムパンフレット】

②中流部の自然環境

中流部は大小の屈曲を繰り返して河岸段丘の谷間を流れ、至る所で岩盤が露出し、砂州や瀬、淵が連続し九十九曲の流れ、恵比寿河原、大石といった景勝地を構成しており、これらは合わせて香肌峡とよばれ県立自然公園に指定されている。また、沿川にはスギ、ヒノキの人工林やシイ、カシ萌芽林などの樹林が連続し、水辺には清流櫛田川を代表するアユや、国指定の天然記念物であるネコギギなどの魚類をはじめ、ヤマセミ、エナガ、ヤマガラなどの鳥類が生息する。また、国指定の特別天然記念物であるオオサンショウウオが確認されている。

恵比寿河原

香肌峡に属する恵比寿河原は良好な瀬淵が存在しアユの釣り場としても人気のスポットとなっている。





大石付近

中流部の大石付近は、香肌峡に属し、岩盤が露出して様々な景観美を生み出している。【出典：松阪市勢要覧】

③下流部の自然環境

下流部は伊勢平野の南端を流れ、法田付近で^{ほうだ}祓川と分派する。本川の河岸には竹類、エノキ、ジャヤナギ、カワラハンノキなどの河畔林が分布し、チュウサギやカワウなどが集団営巣地として利用している。

^{りょうぐん}両郡橋付近及び東黒部頭首工の下流河道内では、アユの産卵場が見られる。

両郡橋から下流では、頭首工の湛水区域が連続し流れの緩やかな区間が連続することなどから、ヨシ、ヒメガマ、マコモなどの水生植物が繁茂し、止水環境を好むトンボ類等の水生昆虫が生息している。また、ヨシ原に依存するオオヨシキリの営巣や、湛水面を利用するカモ類の休息の姿を見ることができる。



両郡橋下流のアユの産卵場所



サギのコロニー（6.2 km付近）

第二頭首工上流左岸には、スギ、エノキ、モウソウチク等からなる発達した河畔林があり、サギ類の集団営巣地となっている。



カワラハンノキ

自然のレッドデータブック・三重における希少種。川岸の礫地に生息する。



オオヨシキリの繁殖地

下流部のヨシ原は、オオヨシキリの繁殖地となっている。【提供(オオヨシキリ)：市川雄二氏】

④河口部の自然環境

東黒部頭首工より下流は感潮区域であり、チチブ、ボラなどの汽水魚、海水魚が生息している。河口に広がる干潟はアイアシ、フクド、ハマボウなどの海浜性植物や、ゴカイなど汽水性の底生動物が多く生息するほか、シギ、チドリ類などの集団分布地となっているほか、コアジサシの繁殖地も見られる。



河口部干潟

塩性湿地が豊富で、ハマボウ等重要な生物の生息も確認されている。



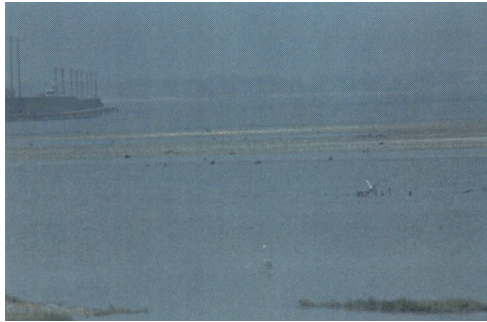
ハマボウ

神奈川県を分布の東限とする暖地性の植物で、三重県では熊野灘沿岸地方に主として分布し、伊勢湾沿岸地域では稀な植物群落となっており、保全に配慮が望まれる。(写真は0.2 km付近右岸の様子)



カワラヨモギ

自然のレッドデータブック・三重における希少種。海岸や河川敷の砂地や礫地に生息する。



シギ、チドリ類の集団休息地
河口部の干潟は、シギ、チドリ類の集団休息地として重要な役割を果たしている。



コアジサシ



シロチドリ

【提供：市川雄二氏】

⑤祓川の自然環境

かつては本川であったと伝えられる祓川は田園地帯を流れる自然豊かな小河川であり、蛇行に沿って生えるケヤキなどの河畔林やヨシなどの抽水植物が水辺の豊かな自然を育み、シロヒレタビラやアブラボテなどのタナゴ類が生息する。



祓川の河畔林



シロヒレタビラ

祓川にすむタナゴ類。自然のレッドデータブック・三重における希少種
【提供：清水義孝氏】



アブラボテ

祓川にすむタナゴ類。自然のレッドデータブック・三重における希少種
【提供：清水義孝氏】

⑥^き佐^な川の自然環境

支川佐奈川にもタマシギ、クイナなど湿地に生息する鳥類がみられる。

●区間別の主な環境要素と河川環境を特徴づける種及び集団分布地、繁殖地等

区間	主な環境の構成要素	櫛田川の河川環境を特徴づける種	集団分布地、繁殖地（産卵場）、ねぐら
感潮区間 (0～3.6k付近)	○水域 ・汽水域 ○陸域 ・干潟、塩沼植物群落、 ヨシ原	魚類：チチブ、ピリンゴ、ボラ、ウ グイ、カマキリ* 植物：ハマボウ*、アイアシ*、フク ド*、ヨシ 鳥類：シロチドリ*、コアジサシ*、 オオヨシキリ*	魚類：アユの産卵場 鳥類：シギ、チドリ、カモメ類の集団休 息地、コアジサシの繁殖地、カモ 類の集団休息地、オオヨシキリの 繁殖地
下流区間	○水域 ・瀬、湛水域 ○陸域 ・河畔林、砂州	魚類：アユ、ウグイ、オイカワ、ア ブラハヤ、アカザ*、カワヨ シノボリ 植物：ツルヨシ、エノキ、ムクノキ、 スギ、ヒノキ、マダケ 鳥類：カワウ*、チュウサギ*、ホオ ジロ、カワセミ*、ヤマセミ*、 カイツブリ、コガモ、カワラ ヒワ、セグロセキレイ 両爬哺：アマガエル、カナヘビ、カ ヤネズミ	魚類：アユの産卵場 鳥類：ツグミのねぐら、タゲリの休息地、 カモ類の集団休息地、カワウ、サ ギ類の集団分布地、スズメのねぐ ら
中流区間	○水域 ・瀬淵、岩盤、蛇行 ○陸域 ・砂州、清流	魚類：アユ、カワヨシノボリ 鳥類：ヤマセミ*、エナガ、ヤマガ ラ 両爬哺：オオサンショウウオ*	
上流区間 (蓮川含む)	○水域 ・溪流、瀬淵、清流 ○陸域 ・	魚類：アマゴ、タカハヤ 両爬哺：オオダイガハラサンショウ ウオ* 陸昆：ゲンジボタル*	
佐奈川	○水域 ・緩流域 ○陸域 ・湿地	魚類：メダカ*、ギンブナ、イチモ ンジタナゴ 植物：ツルヨシ、マコモ、ウキヤガ ラ 鳥類：カルガモ、タマシギ*、ムク ドリ	
祓川	○水域 ・蛇行 ○陸域 ・河畔林、ヨシ原	魚類：ウグイ、シロヒレタビラ*、 アブラボテ* 植物：ケヤキ、ヨシ、コウホネ*	

*：特定種

⑥ 榑田川を特徴づける場所

このような榑田川の環境を特徴づける場所として、地域の有識者からなる「榑田川環境特性懇談会」（平成9～10年開催）において、以下の24箇所が抽出されている。

表2－1 榑田川を特徴づける環境

	らしさのキーワード	位 置	内 容
①	河口に広がる砂丘と干潟	河口、松名瀬海岸（0k 付近）	鳥類の休息地やハマボウ群落の生息等、生物の生息場として貴重な環境を有している。
②	スズメ、ムクドリの集団ねぐら	魚見橋上流右岸（4.4～5.0k 付近）	サ、エ、サ等々の河畔林が、鳥類の休息場となっている。
③	サギのコロニー	榑田川第二頭首工上流左岸（6.2k 付近）	エ、サ、マダ等々の河畔林が、サギ類の集団営巣地となっている。
④	夏の川遊び	榑田橋上下流（7.5～8.0k 付近）	広い川原は、夏場を中心に水遊びをする家族連れでにぎわいを見せる。
⑤	神山神社の遷宮	榑田可動堰下流（10.0k）	河原の丸い白石は神山神社の伝統行事と深い関わりを持っている。
⑥	神山付近の気品漂う風景	松阪市法田町（10.5～11.5k 付近）	榑田可動堰の広い湛水面と神山の山並み、河畔林が調和した気品漂う風景を形成している。
⑦	歴史を感じる両郡橋周辺の風情	両郡橋付近（14.2k 付近）	往事の繁栄の名残を残す古い町並みと榑田川の清流が調和した独特の風情を醸し出している。
⑧	庄町付近のゆるやかな流れ	松阪市庄町付近（16～17k 付近）	川の中に点在する白い岩と透明感のある緩やかな流れ、砂礫の川原が榑田川を代表する景観を呈している。
⑨	昔ながらの風景	津留橋付近（22k 付近）	手つかずの自然が残されており、津留の渡し跡として賑わった当時の雰囲気がいづれる。
⑩	オートキャンプ場	勢和大橋下流河川敷公園（29～30k 付近）	広い川原が開け、行楽シーズンになるとオートキャンプ等を楽しむ人々でにぎわいを見せる。
⑪	恵比寿河原と奇岩・奇石	松阪市大石町～飯南町立梅付近（32～41k 付近）	香肌峡の入り口に位置し、河床の岩盤が奇岩、奇石となって見事な河川景観を見せている。
⑫	ハーサイト茶倉と立梅用水	飯南町粥見付近（41k 付近）	榑田川に触れ合う場を提供するほか、榑田川の水の大切さを伝承する場となっている。
⑬	清流を印象づける流れ	相津川合流点～桜橋付近（44k 付近）	榑田川の流れが周辺の山並み、水辺の林、白い砂州と調和し、清流榑田川を特徴づける風景を見せている。
⑭	川俣太郎とアユ釣り	飯南町粥見～赤桶（41～56k 付近）	荒瀬、岩盤、大淵、大岩が連なり、「川俣太郎」と呼ばれるアユが育つ区間である。
⑮	枋川合流点付近の風景	枋川橋付近（48～49k）	瀬淵の連続したさまと沈み橋が調和し、榑田川を特徴づける風景を呈している。
⑯	水屋神社と礫石	赤桶橋付近（56k 付近）	水屋神社付近の榑田川は、国分け伝説にまつわる礫石があり、神秘的な雰囲気を与えている。
⑰	田引の一本松	田引堰堤付近（60k 付近）	和歌山街道の名残を残す松の大木が水面に姿を映し、独特の風景を形成している。
⑱	九十九曲のキャンプ場	飯高町粟野付近（65～66k 付近）	榑田川で最も曲がりくねった区間であり、シーズンには多くの人が渓流、峡谷の自然を楽しんでいる。
⑲	自然の学校	飯高町内（49～83k 付近）	飯高町内を流れる榑田川は、自然の営みを教材として子供たちに川の大切さを伝える重要な役割を果たしている。

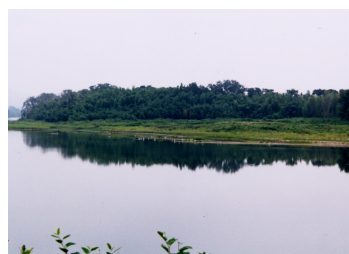
	らしさのキーワード	位 置	内 容
②⑩	はぜ 波瀬本陣跡と櫛田川	飯高町波瀬西切 (82.5k付近)	古くから宿場町として栄え、川沿いの桜と古い家並みが櫛田川の流れと調和した風景を形成している。
②⑪	溪流のリゾート地	飯高町波瀬野口 (83k付近)	水と緑に親しむ溪流のリゾート地となっているほか、地域によって波瀬ユリが大切に育てられている。
②⑫	地域を守り、生活を支える蓮ダム	蓮ダム周辺	周辺環境整備や水質の保全対策により、自然と調和を目指したダムづくりが進められている。
②⑬	蓮溪谷・宮の谷	蓮ダム上流	多くの滝と急峻な崖が溪谷を特徴づける景観を形成している。
②⑭	禊ぎの川祓川	祓川	斎宮の禊ぎの場として利用された名残を残し、歴史を感じさせる場となっている。



①河口に広がる砂丘と干潟



②スズメムクロリの集団ねぐら



③サギのコロニー



④夏の川遊び



⑤神山神社の遷宮



⑥神山付近の気品漂う風景



⑦歴史を感じる両郡橋周辺の風情



⑧庄町付近のゆるやかな流れ



⑨昔ながらの風景



⑩オートキャンプ場



⑪恵比寿河原と奇岩・奇石



⑫リハースイト茶倉と立梅用水



⑬清流を印象づける流れ



⑭川俣太郎とアユ釣り



⑮栃川合流点付近の風景



⑯水屋神社と礫石



⑰田引の一本松



⑱九十九曲のキャンプ場



⑲自然の学校



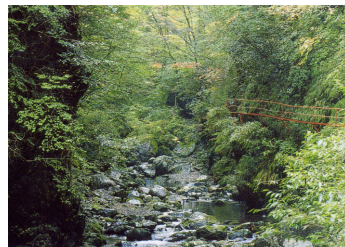
⑳波瀬本陣跡と櫛田川



㉑溪流のリゾート地



㉒地域を守り、生活を支える蓮ダム



㉓蓮溪谷・宮の谷



㉔禊ぎの川祓川

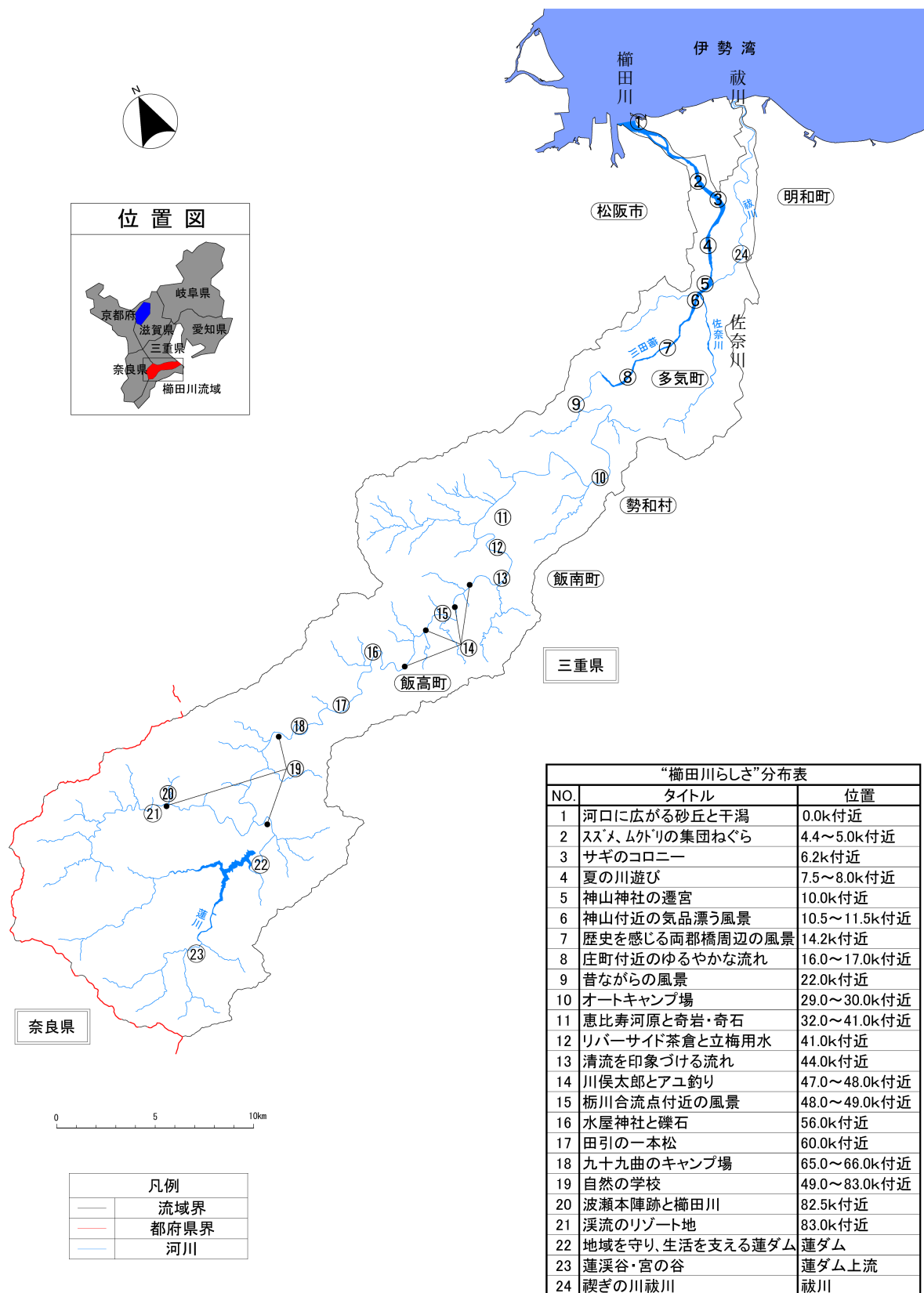


図2－1 櫛田川らしさの場所